

## 1. 定住自立圏の形成により目指す圏域の将来像について（提出順）

(圏域のめざす姿、ポテンシャル（可能性）)

1	<p>情報の収集対策として。</p> <p>（敵を知り、我を知れば百戦危からず）と先人の言葉を再認識すること。 環境問題の視点から、地域の環境については在住十勝人が等しく習熟周知しているか危惧すべき環境が多く存在している。 中心都市の環境と郡部の自然環境の相違はあまりにもギャップがありすぎる。 十勝人が等しく十勝の地域環境を確認するための対策が、広く認知を得るために、管内市町村の相互訪問で環境の相違を熟知し、如何にアピールするかを理解するために</p> <p>(1) 地域自然環境：行政サービス等を含めあまりにも風土環境の相違確認 計画中、広大な大地・澄んだ水と空気・有数の日照時間（競馬場に建設計画のソーラー等） 十勝の環境は衆人認知であろうか、地域により現況に相当感覺的誤差があるのではないか</p> <p>(2) 地域 環境：コミュニティー形成の独自性を地域別に把握 社会性が地域により余りにも違うことから、中心都市のコミュニティー形成と、郡部のコミュニティー形成は内容に相当差異点がある。 少数社会から比較的大規模社会の運営は差異があって当然であるが、地域住民の社会性に誤差があっては安心・安全な社会性が担保されない現状もある、特に多様化すればするほど複雑なコミュニティーの運営を余儀なくされる、十勝全体の独自性を発揮する環境づくりが地域性を凌駕した、十勝圏コミュニティーとして重要な対策となる。</p> <p>(3) 住民 環境：地域性の把握と住民の社会性把握、自治会・町内会の活動の状況が地域による相違点等現状を把握</p> <p>以上のような相対的、個別的に管内の現状を把握して、類似できるものから十勝全体のコミュニティー形成を図っていく計画ができないか。 分野別では、既に広域化が進展しているが地域住民間の町内会的交流は皆無、新聞（勝毎）によるコミュニティー欄での情報で知る以外何もない現況にある。 自然環境については、独自性発揮が十勝の強みとして広くアピールできる広域地域であるが、ここに人的広域性が加われば百人力であり、そのために第一歩として、十勝人であることを壮大なキャッチコピーとして連携・協力の基礎作りに、相互研修で我を知り、住みよい十勝を想像すべきである。</p>
---	--

<p>2</p>	<p>1 十勝はひとつ 農業王国十勝</p> <p>〔十勝はひとつ〕を合言葉に十勝圏の発展を図るべく各市町村が独自性を保ちながら、創意工夫をした街作りをすることが必要と考える。そのため連携体制を強化し相互補完作用を発揮することが重要だ。時にはイベントなども十勝共同でやる。十勝は基本産業である農業を基盤に、付加価値をつけた農産品をメインに関連産業の活性化を図る。景観にも視点を置き、観光産業も振興し十勝の魅力を創造する。</p> <p>2 輝く太陽 夢呼ぶ十勝</p> <p>十勝は美しい青空、道内2位の日照時間の長さ、きれいな水など自然に恵まれた長所が多々ある。寒冷地というハンデイーも逆発想で長所に転換できる。公害もなく比較的、安心安全な地域として見直されると思う。 宅地対策も工夫をして時代に即応したニュータウン作りを促進し道外からの受け入れ体制も考えるべきと思う。</p> <p>3 定住自立十勝圏も、原点は魅力ある街づくりが基本だと考える。</p> <p>そのためには行政と住民が協働して街づくりに取り組み、夢のある地域を作出することだ。住んで良かったと思う街は、当然、定住率が高い、道内でも伊達、白老などは先進的な地である。</p>
<p>3</p>	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <p>帯広市の中心市宣言により定住自立圏を立ち上げて、生活機能として医療について共生ビジョンに取り組むことの主旨は理解します。その一方で近年コミュニティや地縁の希薄化が進む中で、十勝住民の地域社会に対して持つ態度や意識が、どのような影響を受けるかについても注目していかなければなりません。「コミュニティ意識」がこれから10年先の十勝が目指す圏域の将来像に欠かせないものと考えます。</p> <p>【圏域のポテンシャル（可能性）について】</p> <p>将来像としての救命救急センター・地域医療体制の確保として資料6にある原案に、特に異論はありません。現在起きている十勝医療圏の一局集中化に輪をかけて助長されることがあると、認知症高齢者、老老介護、児童や高齢者への虐待などの地域に潜む今日的諸問題等で、地域住民の「コミュニティ意識」の向上をはかる取組みが求められ、圏域のポテンシャルを高める上でも、地域に住む人々の「コミュニティ意識」が大切と考えます。</p>
<p>4</p>	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <p>第一次産業（農業、漁業、林業等）を中心として、2次産業・3次産業への発展を考慮する。</p> <p>【圏域のポテンシャル（可能性）について】</p> <p>第一次産業の残さ物の再利用を進める。</p>

5	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <p>帯広を中心に変形同心同状の形態をうまく利用して、十勝を発信しよう。</p>
6	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開拓が農業の民間開拓で行われたこと。(フロンティアスピリット)</li> <li>・農業を中心として商業など関連産業が集積してきたこと。</li> <li>・十勝の食料自給率は1100%であること。(北海道のN0.1とは日本のN0.1)</li> </ul> <p>⇒このため、課題は付加価値づけ</p> <p>○6次産業化 や ○フードバレー</p> <p>○「農・商・工・消」(農業・商業・工業・消費者)連携により「新アグリポリス」を目指すべき姿の一つに加えるべきである。</p> <p>【圏域のポテンシャル(可能性)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな自然環境と広大な土地に恵まれたとから⇒</li> <li>○自然と共生してきた環境生態都市(豊かな自然に恵まれた環境共生都市)を生かす</li> <li>●農業算出額(道内1位)、先端大規模機械化農業、大規模装置化畜産施設、食料自給率1100%、菓子加工業の実績、農畜水産加工技術の取組み⇒</li> <li>○豊富な農林畜産資源と優れた農業生産技術を生かし、食料王国十勝から6次産業化により付加価値の高い食糧コンビナートとして日本基地の位置づけへ。</li> </ul> <p>⇒キーワードは「環境共生」と「高付加価値産業化」</p>
7	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <p>高齢生産人口の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心都市との絆は、高齢者にとって安心・安住の空間づくりが必要。</li> <li>・地域にとっては、自立する高齢者構想を確立することで、生活への生甲斐づくりを形成する必要がある。</li> </ul> <p>【圏域のポテンシャル(可能性)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十勝型資源は、1次産業に依存されるが、加工等による6次産業を目指した農商工連携の推進が必要と考える。</li> <li>・地域環境を保全し、地域の資源となる(人・自然)を活用した取り組みの連携が必要。</li> </ul>
8	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <p>都会から十勝へ人を呼び込もう。 リピーターから定住へ。</p> <p>(大都会での災害等を考えたら、広大な十勝平野の自然環境と、安心、安全をもっと売り込んで、人口増につなげることができるのではないか?)</p>

9	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <p>人口17万の中心都市帯広の持つマンパワーの厚さ、利便性に、近郊郡部の自然環境や産業（特に農業）という強みを結びつけ、19市町村が連携をとって、医療、教育、福祉、産業等、様々な分野の発展を目指す。豊かな自然を感じながら、子供達が成長し、意欲を持って働いて、安心して高齢期を迎えられる生活圏。</p> <p>【圏域のポテンシャル（可能性）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業 （小麦、ビート、馬鈴薯、豆等の畑作産品、肉、牛乳、チーズ等の畜産物）資源、漁業資源。</li> <li>・自然環境 （植物、動物、海、山、河川）。</li> </ul>
10	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と環境にやさしいまちづくり</li> <li>・安全安心な暮らし</li> <li>・人間らしいやさしさ、思いやり、あたたかい心</li> <li>・子供たちが伸び伸びと育つ風土</li> <li>・愛郷心（古里・故郷を愛したい・誰もが住みたい）</li> <li>・2次交通（地域公共交通とは別の意味で観光客の足として）</li> </ul> <p>【圏域のポテンシャル（可能性）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な大地　・豊富な食料基地</li> <li>・道東自動車道の活用　・空路（空港）　・鉄路</li> <li>・スケート王国　・スイーツ王国</li> <li>・とち晴れ（晴天が多い）　・水　・人（とち人）</li> <li>・環境先進地域　・新エネルギー</li> <li>・移住交流ガイド（ライフコンシェルジュ）</li> </ul> <p>（文言の追加、修正意見）</p> <p>○地域公共交通、<u>2次交通</u>、地産地消の推進、移住・交流の促進、</p> <p>○<u>愛郷心</u>、<u>誰もが住みたい</u>、<u>住み続けたい</u>と思える十勝を目指します。</p>
11	<p>【圏域の目指す姿について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・医療・福祉の連携 地域資源の有効活用とネットワーク化で、日本の先進圏域に</li> </ul> <p>【圏域のポテンシャル（可能性）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の食料基地</li> <li>・農産物加工などの第6次産業化 中心市が持つ施設や消費者と町村の資源との連携により圏域全体の活性化、魅力づくり</li> </ul>

12	<p><b>【圏域の目指す姿について】</b></p> <p>「がんばれ日本」  「環境」「農業・食料」「エネルギー」基盤を生かす！  十勝定住自立圏を目指そう！！</p> <p><b>【圏域のポテンシャル（可能性）について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境」－環境問題 CO2削減（25%）→日照時間年2,016時間と日本国内でトップクラスで、太陽光発電に適していると思います。</li> <li>・「農業・食料」－CO2削減 農業基盤を生かし、現在の26万ヘクタールから、30万ヘクタールに増やし、しかも有機肥料の投入などでメンテナンスすることで、CO2の吸収量を2倍にできないか？</li> <li>・「エネルギー」－「新エネルギーの創出」→バイオマスエタノールなのか、またこれに変わる物を目的にし活力を取り戻す。</li> </ul>
13	<p><b>【圏域の目指す姿について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の自治体が縦横無尽にネットワークを張り巡らせ連携するのが目指す姿と思います。</li> <li>・キーワードは ネットワーク、連携、クラスター、横のつながり、</li> <li>・定住自立圏は形として進むしかないと思いますが、副産物として上記のような形ができることを期待します。</li> </ul> <p><b>【圏域のポテンシャル（可能性）について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十勝の最大の力は人間だと思います。  転んでもただで起きない  どこかで何か大きなことをやるぞ  少しひねったらこんなことができるのでは？  雑草のような力強さ  変人が多い  十勝から日本が変わり世界が変わる  少なくとも十勝が北海道をリードすることはできると思います。  まとめると 十勝人気質をどう盛り上げるか？だと思います。</li> </ul>

## 2. 具体的な取組みなどについて（分野毎）

### （1）医療

1	医療に関して言うと、この地域住民の「コミュニティ意識」が、長寿社会に暮らすわれわれの健康を保つ上でも関連し意義あるものと考えます。共生ビジョン全般について意見を述べることはできませんが、直接ではなく間接的にも地域住民の「コミュニティ意識」をいかにして高めていくべきかを考えたいと思います。
2	三次医療を担う救命救急センターへの支援は賛成です。大多数が帯広にとどまる帯高看への支援は何故（？）というところです。 救急（一次）検診は他町村（特に音更、札内）らと連携がとれば、もっとスムーズにいくと思われます。町村間の壁をうち破ることが必要と思います。
3	・看護系大学の設置の検討 看護スタッフの確保が課題 看護対象の多様化に合わせた看護実習の見直しの必要性 養成所希望の減少、看護系大学の希望者の増加

### （2）福祉

1	<p>1) 地域活動支援センターを全町村に設置（未設置町村 6 箇所） 2) 身近に利用出来る支援施設の情報発信（相談支援の充実。利用者への啓蒙）</p> <p>「十勝圏域は、南北に200キロ東西に120キロ有り、圏域の全町村がすべて中心都市の帯広市の支援施設を利用する事は不可能。 十勝圏域を5地域に分割し ①帯広市、音更町、士幌町、芽室町、幕別町、中札内村（センター 帯広市） ②上士幌町、足寄町、本別町、陸別町（サブセンター 足寄町） ③清水町、新得町、鹿追町（サブセンター 清水町） ④池田町、豊頃町、浦幌町（サブセンター 池田町） ⑤更別村、大樹町、広尾町（サブセンター 大樹町） 5の地域ごとに中心都市である帯広市のサブセンターになる町村を決め、サブセンターの町村はその地域ごとの情報を収集し、地域内の町村に発信するとし、同時に帯広市に報告し、帯広市は圏域全体の中で利用の効率を指導。 その目的は、広大な十勝管内において遠方の町村に居住している利用者の交通の利便性を考慮するためと、身体・知的障害者（手帳交付者）が2万2千人いるが施設数24箇所、定員が317人と極めて施設数が不足しているので、地域の中で施設の充実を図るためとする。</p> <hr/> <p>1) 福祉担当職員の交流（情報交換） 2) 中心都市帯広市が官民合同の圏域支援施設の協議会設置（情報交換、経営相談、人材育成） 障害者本人及び家族は非常に不安を抱えている。そういう方々に対し行政が待ちの姿勢でなく、行政から直接情報を発信し相談を持ちかける必要がある。その為には、行政担当職員の圏域全体の情報交換、交流が必要。 その為には、帯広市が中心となり圏域全体で行政と民間施設との情報交換及び問題解決を図る協議会を設置。」</p>
---	---

2	<p>福祉の分野では、地域活動支援センターの広域利用の促進が、項目としてあがっています。帯広市と近郊部の町村の間では、それぞれの地域活動支援センターの持つ雰囲気や活動内容、職員との相性、通所に利用できる交通機関や送迎サービスの状況などから、すでに広域利用と呼べる現象も見られ、取り組み項目として注目された理由も理解できます。しかし、地域活動支援センター事業については、市町村の行う地域生活支援事業として財源も確保されており、十分とは言えないまでも各地域で継続的に地道な活動が、できていると思いますが、同じ地域生活支援事業である相談支援事業については、市町村の責務であるにも拘らず、財源が十分に確保されていません。</p> <p>障がいのある人も、苦手な部分を福祉サービスの助けを借りることにより、持っている能力や適正を生かして地域で暮らしていかせてもらおう、と言う国の方針を具体的に実現していくためには、障がい者の相談に乗り、利用できる福祉サービスを提案し、サービスを提供する事業所間の調整を行う相談支援事業の充実が不可欠です。その重要性がようやく認識され始め、障がい者が地域で安心して暮らしていくために、どこの市町村でも、これから特別に力を入れていかなければならない相談支援事業については、障害者自立支援法の改正でも大きく変更が加えられ、重点的に補強される予定の部分です。この状況からも、十勝定住自立圏構想の、障がい者福祉部門取り組み項目としては、是非、「相談支援事業の広域実施」を取り上げて（実際、福祉サービス事業所や病院、訪問看護ステーション、学校など19市町村のさまざまな機関の連携を図ること自体が、相談支援事業でもあります）頂きたいと思います。よく分かりませんが、もし、国の「地域活性化事業債」が利用できて、相談支援事業の実施に不可欠な人材の育成や雇用ができれば、十勝定住自立圏の障がい者福祉の促進に役立てることができると考えています。</p>
---	---

### (3) 教育

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、道、市町村で今持っている、特に社会教育施設の洗い出し（調査、研究）</li> <li style="text-align: center;">↓</li> <li>・中心市と各町村が既存施設の使用について、全ての面から話し合う</li> <li style="text-align: center;">↓</li> <li>・（現状把握）→（改善、対策、対応）→ 目指すのは、すべての施設は貸して喜び、借りて喜ぶようにすべきだと考えます。</li> </ul>
---	--

### (4) 産業振興

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農畜産業は、自動車産業より底辺のすそ野の広い産業であることを意識化し、</li> <li>○十勝中央部の大規模畑作・野菜地帯から外延部の大規模酪農・肉牛生産地域そして山麓部の大規模林業地帯の十勝型バリエーションを相互のポテンシャルをリンクし、</li> <li>○中央部の大型流通・商業地域、文化・スポーツなど十勝を支える産業文化・生涯学習機能をエリアネットワークし、</li> <li>○先端技術と情報の集積を圏域に生かす田園都市構造を最大限に生かす視点を！</li> </ul>
---	---

2	<p>十勝定住自立圏共生ビジョンの目的は、十勝として自立する事が目的と思われる。</p> <p>今回のビジョンは総花的であり、もっと日本全体、北海道の中で十勝の攻めていく課題に絞り重点的に投資すべきと思う。</p> <p>十勝の攻めるべき産業としては、将来の世界的な食糧不足に対応する為にも、農業を軸にしたその関連産業および教育・研究にたいして、圏域での共生のためにあらゆる資源を投資すべきと思われる。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域商業の疲弊を脱却するには、生産人口の増加が必要であり、中心都市と地域の格差が危惧される。</li> <li>・地域の自立する商業とは、買い物難民を支援するとともに、専用のショッピングモール空間づくりと、担い手となる高齢者による働く場を確立することが必要。</li> <li>・中心都市と地域の使いやすい、公共交通機能が必要。</li> </ul>
4	<p>(文言の追加、修正意見)</p> <p><b>【産業振興（広域観光の推進）】</b></p> <p>情報を集約して、十勝の観光情報を一体的に発信します。</p> <p>(<u>コンセンサス、リーダーシップ、連携</u>の文言を入れてはどうか)</p>
5	<p>人材育成のところで、想像できるのは各市町村間の人事交流、あるいは民間(大きな企業、またはNTTやJRと言った昔の役所)への派遣が思い当たります。</p> <p>それは、今までの人材派遣でなかなか育成にはなっていないと思っています。</p> <p>そこで提案ですが、畜大でやってる人材育成事業がなかなか素晴らしいものでネットワークもどんどん広がって行っています。ただ、今年度で終了になっていて、今後の姿を模索しているところです。</p> <p>当初は町村の職員も参加可能で募集をしたようですが、実際には民間人だけです。この際ですから、民間人、公務員の仕切りもなくし、帯広も他町村の仕切りもなくし若者を代表選手として一人づつ派遣する。のはいかがでしょうか？</p> <p>今は文部科学省系の機構からの補助金と思いますが、今後はとちかち全体で資金の分担をして本物の人材を育成すべきと思います。</p>

## (5) 地域公共交通

1	<p>利用促進策や<u>啓発活動</u>を検討し、必要な事業を実施します。</p> <p>バス路線毎に実施する利用促進策や<u>路線バス</u>を活用した<u>企画商品造成</u>を各市町村と連携し推進するとともに、住民への利用促進の<u>啓発活動・周知宣伝・営業強化</u>などを行います。</p>
---	--

### 3. その他（懇談会の運営等）

1	<p>分野別会議は計画していませんか。第1回会議の中で思想信条を前面にろんじられていましたが、本会は十勝全体（個々の町村の意）の対応が求められるものと考えます。</p> <p>2～3分科会でワンテーマ別の会議を求めます。全体会議は、年1回結論を出すときでよいのでは。</p>
2	<p>他圏域における定住自立圏で、具体的事業項目で取り組んでいる市町村の実例がありましたら教えていただきたいと思ひますし、より分かりやすいのではないかと思ひます。</p>
3	<p>第1回の会議に出席して思ひたことは、すでに立派な原案が出来ていることである。これらを専門分野の委員の意見を聞き、さらに委員から意見を聴取してより良きビジョンを策定すべきと考える。</p> <p>専門分野外の発想も意外と得るところがあるものだ。</p>
4	<p>生活機能の強化に係る分野では、医療・福祉・教育・産業振興・環境・防災と色々な分野がありますが、グループに分けて行う方が良いと思ひます。</p>

### 第3章 定住自立圏の形成により目指す圏域の将来像

我が国を取り巻く社会経済環境は、人口減少社会の到来、少子高齢化の進行、経済のグローバル化、温暖化をはじめとする地球環境問題への意識など大きく変化しています。さらに、核家族化の進展やライフスタイルの変化など、住民の価値観が多様化する中、これまで地域を支えてきたコミュニティ機能の低下が懸念されています。

また、地域の自主性や自立性を高めるための改革が国において進められており、これからの自治体は、地域の様々な課題解決に向けて、自らの意思と責任で、住民と行政の協働により、地域の特色を活かした活力あるまちづくりを進めていくことが求められています。

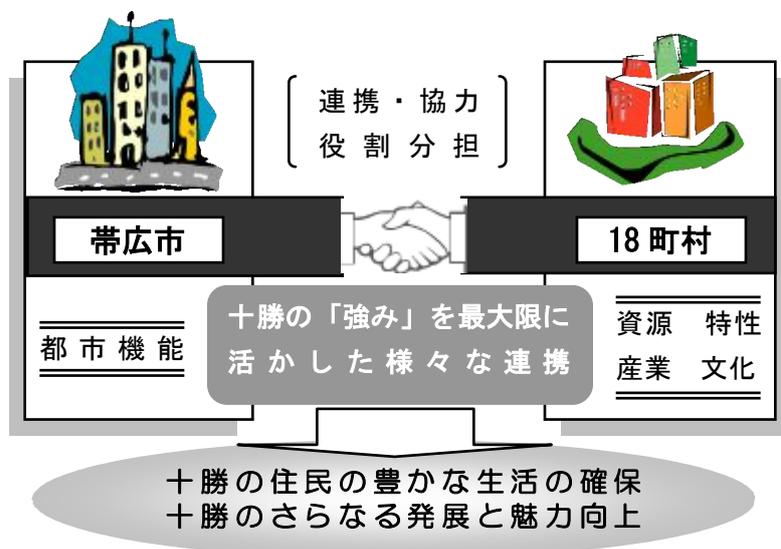
こうした中、複雑多様化する課題に対応しながら、十勝が持続的に発展していくため、帯広市と十勝18町村は、それぞれ1対1で協定を締結し、十勝定住自立圏を形成しました。

今後は、この協定のもと、中心市である帯広市は、圏域全体の暮らしを視野に入れて必要な都市機能の整備を進め、各町村は、それぞれが有する資源や特性、産業、文化などの保持・向上を図るなど、19市町村が役割を分担しながら相互に連携し、十勝の魅力を国内外に発信していく必要があります。

十勝は、周囲を大雪山系、日高山脈、太平洋などに囲まれ、十勝川水系などの清流や広大で肥沃な十勝平野が広がり、四季折々の美しい風景と美味しい水や空気に恵まれています。この多様で豊かな自然環境を基盤として農林水産業が発展し、特に農業は、関連産業などの集積により、日本最大の食料基地としてゆるぎない地位を確立しています。

また、この地域には、開拓以来、先人から受け継がれてきた不屈のフロンティア精神と社会的経済的に深い結びつきのもとに一体的に発展してきた歴史があります。

この十勝の「強み」を最大限に活かし、19市町村が農畜産物の高付加価値化や自然エネルギーの活用、観光の広域化などをすすめることで、十勝のさらなる発展と魅力の向上を図るとともに、保健・医療、福祉、教育、地域公共交通など様々な分野で連携することにより、子どもからお年寄りまで、安全で安心して豊かに暮らせる社会を築きあげ、誰もが住みたい、住み続けたいと思える十勝を目指します。



## 委員意見集約シートについて（「目指す圏域の将来像」関係分）

### 地域コミュニティ・住民協働

- 都市部と群部とでは地域住民の社会性が異なるため、自治会・町内会など地域コミュニティの運営方法にも大きな違いがある。こうした違いを認識した上で、地域住民間の交流を通して、共通の社会性を育み、十勝全体の地域コミュニティを形成すべきである。
- 行政と住民が協働で魅力ある地域づくりをしていく必要がある。
- 認知症高齢者、老老介護、児童や高齢者への虐待など地域における様々な問題を考える上で、地域住民のコミュニティ意識の向上を図ることが重要である。

### 自然環境・新エネルギー

- 都市部と郡部とでは自然環境に大きな違いがあるが、地域住民に十分理解されていない。こうした違いについて十勝の住民が共通の認識に立ち、十勝の強みである自然環境をアピールしていくべきである。
- 美しい青空、道内2位の日照時間の長さ、きれいな水などの自然環境は十勝の長所である。寒冷地というハンディも逆転の発想で克服できる。公害もなく、安心・安全な地域として今後見直される。
- 豊かな自然環境や広大な土地など、安心・安全という地域特性を売り込んで、人口増につなげることができるのではないかと。
- 豊かな自然環境や広大な土地などの地域特性を活かした環境共生都市を目指すべきである。
- 自然環境（植物、動物、海、山、河川）。
- 自然と環境にやさしいまちづくり。
- 環境先進地域、新エネルギー。
- 環境問題CO2削減（25%）→日照時間年 2,016 時間と日本国内でトップクラスで、太陽光発電に適している。
- 新エネルギーの創出→バイオエタノールなどにより地域に活力を取り戻す。

## 産業振興(農畜産物の付加価値向上・6次産業化等)

- 農業を基盤に、農畜産物に付加価値をつけ、関連産業の活性化を図る必要がある。景観に視点を置きながら観光産業を振興し、十勝の魅力を創造する必要がある。
- 1次産業を中心として、2次産業、3次産業への発展を考慮する必要がある。1次産業の残渣物の再利用を進める必要がある。
- 民間による開拓(フロンティアスピリット)、農業を中心とした関連産業の集積、1,100%の食料自給率などの地域特性を踏まえ、6次産業化やフードバレーとかちの推進、農業・商業・工業・消費者の連携に取り組み、新しい産業や文化を展開する「新アグリポリス」を目指すべき姿の一つに加えるべき。
- 豊富な農林畜水産資源と優れた農業生産技術を生かし、食料王国十勝から6次産業化により付加価値の高い日本の食料コンビナートへ発展させるべき。
- 将来の世界的な食料不足に対応するためにも、農業を軸にした関連産業及び教育・研究に対して、圏域での共生のためにあらゆる資源を投資すべき。
- 農業基盤を活かし、現在の26万haの耕地面積を30万haに増やし、有機肥料の投入などのメンテナンスにより、CO<sub>2</sub>の吸収量を2倍にできないか。
- 農畜産物(小麦、ビート、馬鈴薯、豆等の畑作産品、肉、牛乳、チーズ等)、漁業資源。
- 日本の食糧基地。
- 農産物加工などの6次産業化の推進。
- 加工等による6次産業化を目指した農商工連携の推進が必要である。
- 地域資源の有効活用とネットワーク化で、日本の先進圏域に。
- 資源を供給する町村と資源を消費する中心市との連携により、圏域全体の活性化と魅力づくりを進めるべきである。
- 2次交通(地域公共交通とは別の意味で観光客の足として)。
- 道東自動車道の活用、空路(空港)、鉄路。
- スイーツ王国。
- スケート王国。

## 市町村の連携

- 「十勝はひとつ」を合言葉に、十勝の市町村が独自性を保ちながら、連携を強化し、相互補完作用を発揮させながら、創意工夫を凝らした地域づくりが重要である。
- 市町村が連携しながら、人や自然など地域資源を活用した取り組みを進める必要がある。
- 人口17万の中心都市帯広の持つマンパワーの厚さ、利便性に、近郊郡部の自然環境や産業（特に農業）という強みを結びつけ、19市町村が連携をとって、医療、教育、福祉、産業等、様々な分野の発展を目指す。
- 帯広を中心に変形同心同状の形態をうまく利用して、十勝を発信する。
- 圏域内の自治体が縦横無尽にネットワークを張り巡らせ連携するのが目指す姿である。キーワードは、ネットワーク、連携、クラスター、横のつながり。

## 安心・安全の確保

- 中心市との連携は、地域の高齢者の安心・安住の空間づくりに必要である。地域においては、高齢者の自立を支援し、生活への生き甲斐づくりを進める必要がある。
- 安全安心な暮らし。
- 豊かな自然を感じながら、子どもたちが成長し、意欲を持って働いて、安心して高齢期を迎えられる生活圏を目指す。
- 子どもたちが伸び伸びと育つ風土。
- 保健・医療・福祉の連携。

## その他

- 道外からの移住者を受入れるため、時代に即したニュータウンを造成する必要がある。
- 移住交流ガイド（ライフコンシェルジュ）。
- 人（とがち人）。
- 愛郷心（古里・故郷を愛したい・誰もが住みたい）。
- 人間らしいやさしさ、思いやり、あたたかい心。
- 十勝から日本が変わり世界が変わる。少なくとも十勝が北海道をリードすることはできる。十勝人気質をどう盛り上げるか。